



発達障がいのある 子どもをもつ



保護者のための、 支援プログラム開発

療育の専門家であるNPO法人ACOとタグを組み、発達障がいのあるわが子とどう向き合うかを考える保護者向けのワークショップを開発・実施しました。

発達障がいのある子どもをもつ保護者には、子育ての悩みや不安、ストレスが多くあります。また、

子どもに障がいがあることに気づかず悩んでいたりと、自分で何とかしようとして専門機関への相談が遅れたりする場合も。そこで、保護者からのSOSをキャッチし、適切なサポートができる支援プログラムを開発しました。地域に根ざした形で継続的に支援が続いていくことを目指しています。

事業の枠組み

2016年から始まった、発達障がいのある子どもへの支援プログラム「音と光の動物園」は、音楽や映像を駆使して五感を刺激し、子どもの感性を引き出すことができると大好評。また、保護者向けにも交流の場を設けたところ、「不安や悩みを話すことができ心強かった」と高いニーズがありました。そこで2018年、保護者向けの支援プログラムとして独立したワークショップを新たに開発。「子どもの支援」「保護者の支援」という両輪でのサポートが実現しました。

理事長ごあいさつ

特集1【助成事業】

特集2【自主事業】

活動概況

自主事業・助成事業

決算報告

財団概要

発達障がいのある子どもの支援プログラム …… 2016年から引き続き実施

「音と光の動物園」ワークショップ

動物をかたどったペーパークラフトづくりやデジタルアート、打楽器体験などで、子どもの五感に働きかけながら学びの幅を広げます。



発達障がいのある子どもをもつ、保護者の支援プログラム …… 保護者サポートのニーズから2018年新たに開発

「自分を知り、やさしい子育てをする」ワークショップ(全3回)

専門家による発達に関するレクチャーやワークを通じて、子どもとのよりよい関わりをサポートします(詳細は次ページより)



INTERVIEW

事業の背景

保護者の方が笑顔で子育てできるお手伝いを



NPO法人 ACO
(アントワープ
カウンセリングオフィス)代表
臨床心理士 野中友美先生

発達障がいのあるお子さんを育てるには、さまざまな悩みや不安がつきものです。一生懸命やっているのにうまくいかない、自分を責めてしまう、周囲の理解が得られない…。真面目にがんばればがんばるほど、追い込まれて苦しくなってしまうという現状があります。そんなとき支えになるのは、SOSが出せる地域とのつながり。専門家や、同じ悩み

をもつほかの保護者と気持ちを共有しながら、子育てのヒントを学び、考え方や行動をどう変えていけばよいのか、一緒に模索していきます。保護者の方が心にゆとりをもち、楽しみながら子育てができること。それは必ず、お子さんの笑顔にもつながっていきます。悩んでいる保護者をひとりにしない。それは社会の使命だといえるでしょう。

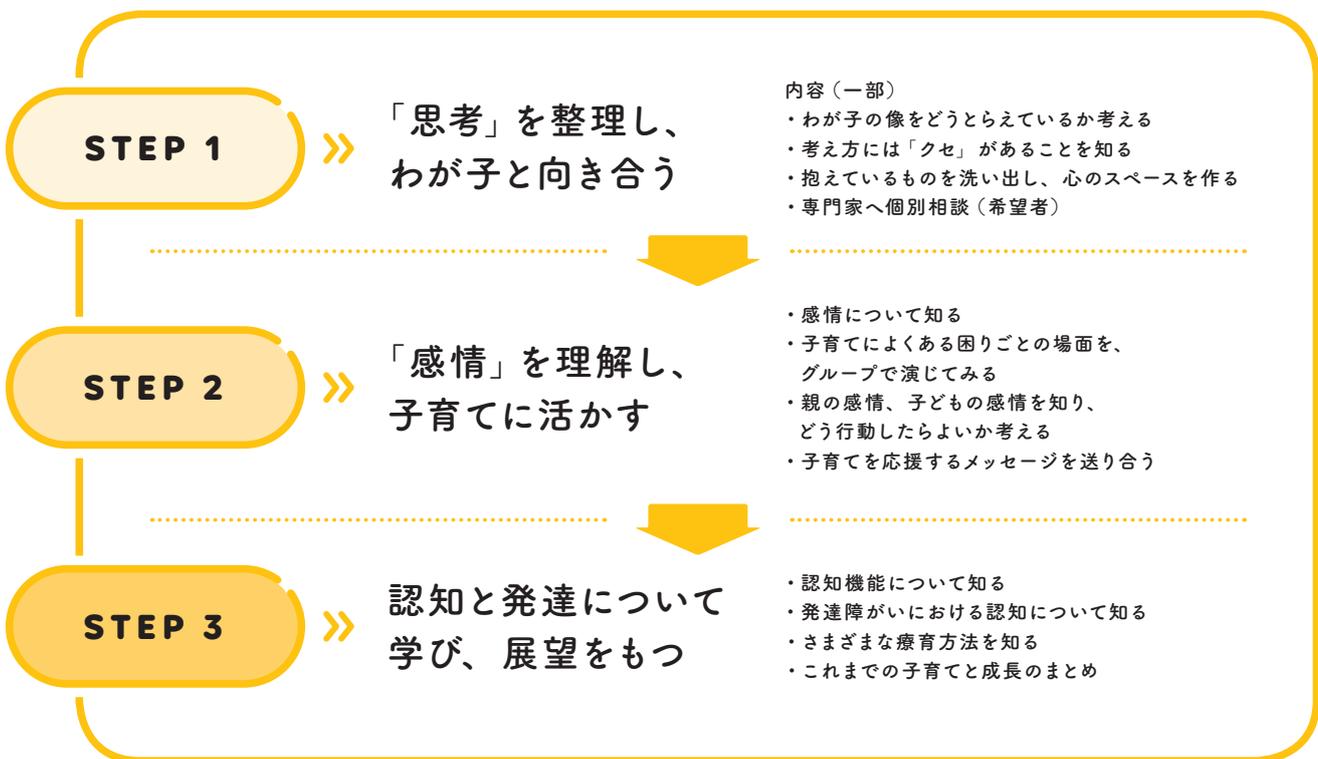
保護者支援プログラムの内容と特長

⇒ 「自分を知り、やさしい子育てをする」ワークショップ（全3回）

各回のワークショップには、それぞれテーマがあります。第1回では、保護者のかかわりの大切さを理解するとともに、悩みや不安でいっぱいの中を整理するところからスタート。第2回では、感情について客観的な理解をし、日々の生活の中でどう行動したらよいかを考えます。第3回

では、今後の療育や子育てについて具体的に考えるための手法を学びます。最後には一人ひとりにプログラム修了の認定証をお渡しも。少しずついいいに理解を深め、自分らしくやさしい子育てを取り戻していくことができるプログラムになっています。

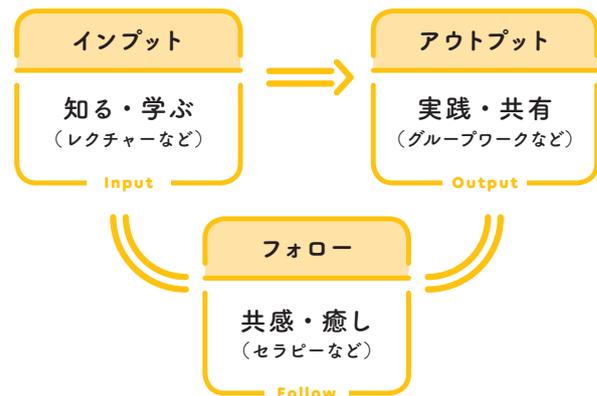
自分らしくやさしい子育てを取り戻す3つのステップ



実践やセラピーも含めた学びのサイクル

各回のワークショップは大まかに、「レクチャー→グループワーク→セラピー」という流れで進んでいきます。講義を聞いて知識を学ぶインプットの時間、子育てを振り返り、気づいたことをほかの人と共有するアウトプットの時間、頭をクリアな状態にし、ポジティブな気持ちを引き出すセラピーの時間。

この3つをバランスよく取り入れることで、各回のテーマについて深く理解し、子育ての行動に活かしていくことができるよう設計しています。



ワークショップの現場より



いらないものを
風船に込めて、一気に放つ！
わが子と向き合う
心のゆとりを取り戻せた。

子育て中の保護者の頭の中は大忙し。気になっていることを紙に書き出し、手放せるものはないかを考えます。抱えていたものを風船に込めてふくらませたら、みんなで飛ばします。頭の中のスペースを整理し、ストレスを軽減します。

子どもの役になりきって
演じたら、
見えていなかったものに
気づくことができました。

日常でありがちな「困った場面」を、保護者役・子ども役などに分かれてドラマのように即興で演じます。役割を交代して演じたり、観察者が感想を述べたりすることで、保護者の気持ち、子どもの気持ちに気づき、どう行動すればうまくいくのかを考えます。



グループワークで、気づきや
思いを共有。
ひとりじゃないと思えたら、
肩の荷が少し下りた。

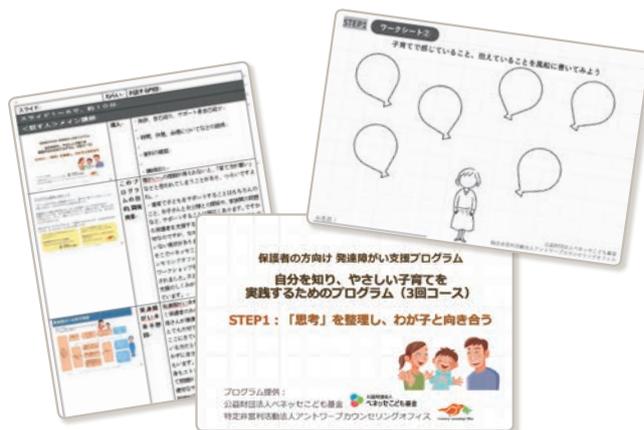


各回とも、話し合いや発表の時間を多く設けています。自分やわが子のことを改めて振り返り言語化することで、現状を客観的にとらえ、今後の子育てについて前向きに考えることができます。また、同じ悩みをもつほかの保護者や、心理の専門家とコミュニケーションをとることで、地域でのつながりを作ることができます。

事業の今後の展開

◎ 保護者支援の輪を広げるため、プログラムをパッケージ化

発達障がいのある子どもをもつ保護者の方のサポートは、全国的にまだまだ十分とは言えません。そのニーズにできる限り応えられるよう、今回開発した保護者支援プログラムを、スライド資料やシナリオ、ワークシートのセットとしてパッケージ化を進めています。



▲ パッケージ（一例）

◎ 各地で活用してもらえるルートづくりを

2019年は引き続き、このパッケージ化した保護者支援プログラムを、全国の自治体やNPO法人、任意団体などで非営利の勉強会のツールとして使っていただけるようにルートを作っていきます。全国どこにいても、それを必要とする人が、必要なときに、学ぶことができること、そして、集まった人々に「つながり」ができ、支えあえることを目指しています。



▲ 活用ルート（イメージ）

発達障がいについての「知りたい!」「困った!」に応えるホームページ



エール & リンク

発達障がいに関する
情報提供サイト、
エール & リンク



<https://benesse-kodomokikin.or.jp/activity/yellandlink/>

コンテンツの一例

- ・発達障がい 対応事例集
- ・相談先一覧
- ・サポートに取り組む方々へのインタビュー など

保護者、支援者の
情報発信基地となれるよう、
情報の拡充に
取り組んでいきます。